

小磁石やボタン電池を飲み込むと、胃腸管が破れる危険性があります！

～三重県立総合医療センターにおける子供の消化管異物 182 例の報告より～

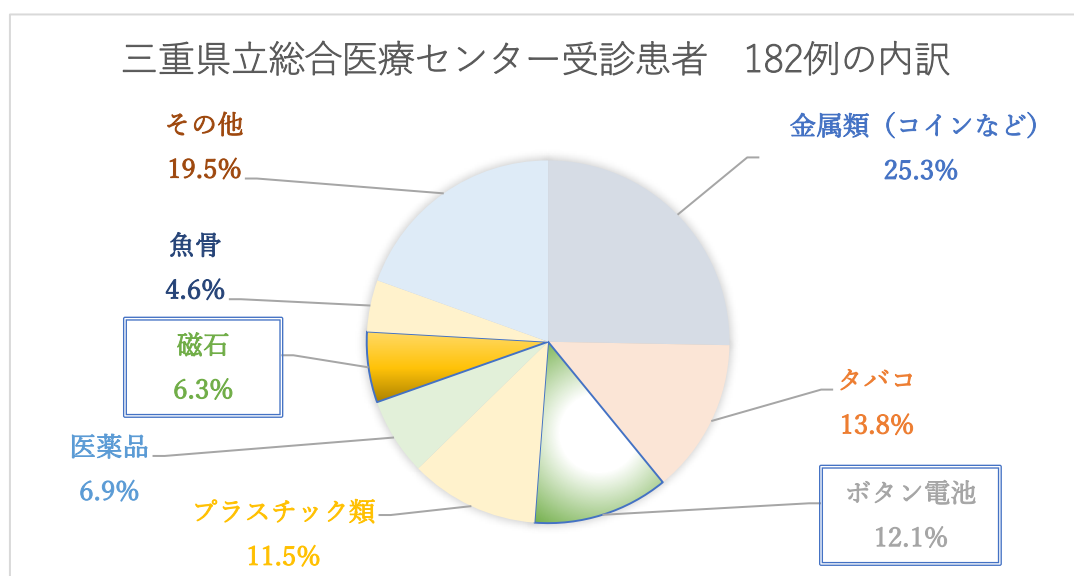
(三重県立総合医療センター 小児外科)

1 誤飲の実態について

子ども特に乳幼児は、身の回りにある小さなものを口に持っていき飲み込んでしまいます。以前より、小磁石やボタン電池などの危険な異物については報告されていますが、同様の事故は無くならず、本院での集計を報告しその危険性を県民の皆様広く啓発したいと考えます。

今回の報告は、2017年4月から2021年11月までの4年7ヶ月に、異物誤飲あるいは異物誤飲疑いを主訴に三重県立総合医療センターを受診された15歳未満の182人の患者さんのまとめです。年齢は、生後6か月から12歳で、1歳が31%と最も多く、4歳未満が全体の80%を占めました。症状を呈した患者さんは約半数で嘔吐や咽頭痛、咳嗽（せき）が多くを占めました。

異物の種類は金属類（コインなど）が25.3%と最も多く、次いでタバコ（13.8%）、ボタン電池（12.1%）、プラスチック類（11.5%）、医薬品（6.9%）、磁石（6.3%）、魚骨（4.6%）の内訳でした（図）。



2 異物の危険性について（小磁石、ボタン型電池）

小磁石は、肩こりなどの改善のために貼付するバンソウコウ状の家庭用永久磁石治療器や、知育玩具の部品として含まれています。複数の磁石を誤飲すると、胃腸管のなかで別々の場所にある磁石が消化管壁を挟んでくっつき、腸に穴をあける場合があります（消化管壁の圧壊、壊死、穿孔、腹膜炎など）、外科手術が必要になります。

ボタン電池、特に、リチウム電池は、誤飲後すぐに放電が始まり、停滞すると数時間で消化管壁の損傷を起こします。

こういったことからお子さんを守るためには予防が第一で、保護者の皆様には、購入の際は危険性を認識し、責任をもって管理をしていただきたいと思います。

3 誤飲の予防について

保護者の方は、子どもが飲み込めるサイズの磁石や電池などの誤飲の危険性を認識するとともに、お子さんの手が届かないところに管理していただくようお願いします。

4 誤飲してしまったときの対応について

(1) 誤って異物を飲み込んでしまったときの対応

異物の誤飲が疑われる受診相談時は、無理やり嘔吐させず、水分摂取を行わずに病院を受診してください。

お子さんが誤って異物を飲み込んでしまったとき、ほとんどの場合が、無症状です。症状が出ている場合、閉塞による嚥下困難や嘔吐、よだれ、しゃっくり、胸の違和感、そして、胃や腸の消化器に穴が開いたり、内容が通らなくなったりする場合（消化管穿孔・^{せんこう}穿通、腸閉塞^{せんつう}）では、腹痛などを訴えることが多いです。

食道の異物であっても、食道入口部付近の異物では、喘鳴（呼吸をするときに、ヒューヒュー、ゼーゼーなどと音がすること）や^{がいそう}咳嗽（せき）、呼吸困難などの呼吸器症状で発症する場合があります。

多くは、救急車を要請することなく、病院を救急受診することが可能です。しかし、顔色が悪い場合や、呼吸が苦しそうな場合、激しい腹痛の場合は、救急車の要請が必要です。

(2) 病院へ行く際のチェックポイント

- ①何を飲んだか
- ②いつ飲んだか
- ③どれだけの量を飲んだか
- ④顔色が悪いなど、いつもと違うところはないか
- ⑤けいれんを起こしていないか
- ⑥意識ははっきりしているか

等をチェックし、誤飲したものによって処置が異なるので、飲み込んだものと同じ物や、その容器や袋、説明書などをもっていくようにしてください。